

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 東京都立杉並総合高校

種別 高等学校

住所 〒168-0073 杉並区下高井戸5-17-1

E-mail : Akihiko_Fujino@education.metro.tokyo.jp

Website : www.suginamisogo-h.metro.tokyo.jp/

生徒数：男子 203名 女子 504名 合計 707名

児童・生徒の年齢 16歳～18歳

2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☐ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☐ 平和・人権
- ☐ 環境
- ☐ 気候変動
- ☐ 生物多様性
- ☐ エネルギー
- ☐ 防災
- ☐ 食育
- ☐ 伝統文化
- ☐ そのほか（国際交流）

3. 活動内容

（1）1年間の主な活動内容について記載願います。

市井の公立高校の「国際化計画」-国際交流委員会活動を通しての指導-

1 都立杉並総合高校は生徒の多様化に対応するためにできた学校である。生徒の将来や職業に対する意識を高め、多様な科目を開設して、普通教育と専門教育を総合的に行う学校で、幅広い選択科目を開設し、多様な能力・適性等に対応した柔軟な教育を行うとしている。しかし統廃合計画の中で設立された結果としての「総合高校」であることから、「進学指導」の枠から外され、中学校や受験産業の進路指導の結果として「負の遺産」も抱えており、単純に突破できない問題も多く抱えている。ましてや、SGH：スーパーグローバルハイスクールでもなければ、SELHi：セルハイでもない。2014年文部科学省が発表したSGHは、「国際化を進める国内の大学を中心に、企業、国際機関等と連携を図り、グローバルな社会課題を発見・解決できる人材や、グローバルなビジネスで活躍できる人材の育成

に取り組む高等学校としている。ⁱ しかし、その内容や取組を見る限りでは本校の実践が遜色ないばかりか、これまでの実践には「一日の長」ならぬ「1万日の長」がある。これは、本校が前身の都立永福高校時代以来25年以上「海外姉妹校プロジェクト」を継続してきたことや、現在でも海外から多くの訪問団も受け入れ、公立高校が普通にできる国際理解教育を推進し、「市民感覚」の相互理解を深めてきたことにある。また、持続可能な地球社会の発展を考え学校設定科目の「国際ボランティア」なども開設している。さらには2012年度よりユネスコスクールに加盟承認された。これは1953年、ASPnet (Associated Schools Project Network) として、ユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するため、国際理解教育の実験的な試みを比較研究し、その調整をはかる共同体として発足したネットワークである。残念ながら加入したばかりで積極的な成果は無く心苦しい部分もある。しかし「国際交流」だけであれば豪州の姉妹校との相互訪問をはじめ日本で一番「国際的」でユネスコの理念を理解しているグローバルな学校かもしれない。

2 「国際交流」と国際交流委員会活動

現在少なからぬ都立高校が「国際交流」活動の学校行事として「海外研修」を実施している。中には旅行業者丸投げのような企画も少なくないが、これらの国際交流活動のベースになったのが現在の勤務校である都立杉並総合高校(以下杉総)である。開校した平成16年度以来シドニーのフォートストリート(以下FS)高校と相互研修事業を実施している。これは本校の母体校である旧都立永福高等学校が統廃合される以前に、FS校と姉妹校の提携を1986年に結び、以来FS校への短期研修とFS校の訪問を受け入れてきた。これらを含めると、昨年度で交流25周年を迎えた。相互訪問とホームステイという対等の立場を維持しながら、私学の様な経営上の宣伝効果や設立理念として「利用」する訳でもなく、また特別な「予算」も無い中で「持続可能な」実践として、都の海外交流事業の基本形態を構築した。

統合母体の永福高校時代に始まったFS校との交流計画や、ほぼ毎月のように訪問を受け入れている。その都度、生徒会・国際交流委員会が関与し交流してきた。特に、姉妹校との相互訪問は隔年で実施することで予算を確保し、相手校との協力・調整からホームステイまで、ハンドメイドの交流計画でコストを下げ、「お得すぎる低価格」で実施。生徒負担は高額になる民間の留学斡旋団体や旅行会社の旅行のような研修ではなく、事前研修から交流プログラムの企画など両校の生徒と教職員・保護者までも巻き込んで創り上げてきた。

これらの企画には「総合学科」という制約の中で、中学では十分に力が発揮できなかった生徒を「力づける・励ます・勇気づける」視点を大切に、私立学校や公立でも「特別な学校の特別な活動」ではなく、長く継続されてきた企画である。また、様々な機関や交流団体・行政組織から要請された学校交流訪問団の受け入れを通して、「市井の公立高校」が普通にできる国際理解教育を推進し、市民感覚の相互理解を深め、また海外に出かけるだけでなく、来日する訪問団も多く受け入れてきた。資料1の様に今年度も既に、台湾、韓国、中国、米国から多くの高校生が来校、本校生徒会・国際交流委員会の生徒を中心に授業参加・クラブ活動の見学・参加などで交流を深めた。9月にはシドニーの姉妹校が来校、10月フランスとの相互交流(コリブリ)、11月ジェネシスで韓国が来校する。これらの活動を可能にしているのが国際交流委員会とそのメンバー・有志である。

3月	KAKEHASHI Project -The Bridge for Tomorrow-アメリカ合衆国 国際交流基金派遣 3月17日(火)～30日(月) 12名派遣
4月	<ul style="list-style-type: none"> 4月25日 ASIJ ミュージカル “Bye Bye Birdie” 42名鑑賞 次世代リーダー募集・応募締切 留学説明会 コリブリ生徒選抜 トビタテ留学Japan 募集 Fort Street ホストファミリー募集
5月	<ul style="list-style-type: none"> 5月27日訪日台湾高校生交流(32名+3名) 次世代リーダー校内選考終了(5/8) 学校推薦1名+1名応募 コリブリ生徒決定(1. 25R 金寄 2. 21R 上田) トビタテ合格者決定(8名) Fort Street ホストファミリー決定 次世代リーダー留学生帰国(6月) 準備(2名) 東京グローバル・ユース・キャンプ募集
6月	<ul style="list-style-type: none"> 次世代リーダー留学生帰国7/1 復学・卒業準備 次世代リーダー生徒決定(1名) 6月18日中国高校生訪日研修団(30名+6名) 東京グローバル・ユース・キャンプ応募(3名) Do-nippon 米国高校生受け入れ準備(7/13) コリブリ交換留学生プロフィール到着 Fort Street ホストファミリーマッチング

7月	<ul style="list-style-type: none"> 7月11日 Fort Street ホストファミリー説明会 7月13日 Do-nippon 米国高校生受け入れ（50名） 米国短期留学生受け入れ（7/6-7/17） 7月1日次世代リーダー留学生帰国 復学(1)/卒業(1) 留学生受け入れ準備（9/1～2名） トビタテ留学Japan インドネシア出発 日韓高校生交流事業団（派遣）応募
8月	<ul style="list-style-type: none"> 8月18日-23日東京グローバル・ユース・キャンプ3名参加 留学生(9/1-)事前指導 トビタテ生徒帰国
9月	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭で活動報告展示 日韓高校生交流事業団（派遣）合格（2名） 留学生入学（16R Agnete デンマーク, 25R Nachawee タイ） Fort Street 生（豪 シドニー姉妹校：来校（9/25-10/2）25名
10月	<ul style="list-style-type: none"> コリブリ生徒フランスより2名滞在（10/19-11/6） 日韓高校生交流（派遣）事業2名参加（10/11-16, 10/25-30） 韓国高校生交流準備
11月	<ul style="list-style-type: none"> 11月10日韓国高校生交流（30名） 東京外大文化祭引率
12月	<ul style="list-style-type: none"> 12月18日 留学生が先生 総合学科発表会 @晴海総合高校 本校の国際交流をテーマにプレゼンテーション
1月	<ul style="list-style-type: none"> 2年生修学旅行 台湾 新竹
2月	<ul style="list-style-type: none"> 次世代リーダー 留学生オーストラリア 出発
3月	<ul style="list-style-type: none"> コリブリ フランス交流事業 生徒派遣

なお、本年度後半から年度末に関しては都立高校入選業務等がある事や、まだ未確定の部分が多い。随時紹介があった段階で対応していく予定である。また、10月下旬には文部科学省のトビタテ留学 JAPAN の2年度目の募集告知等が始まることで、選考に向けての作業や企画の動きが明確になっていくかと思う。いずれにしても「来るものは拒まず。まさにオモテナシの精神」で生徒・教職員・保護者も巻き込んで対応していくことは間違いない。

3 受け入れに向けての工夫と指導

国際交流委員会や各担当の分掌が原則的であるが、いずれの部分にしても「来るものは拒まず！オモテナシの精神」で生徒・教職員・保護者で対応している。また、市民講師（日本舞踊、生け花、ダンス）などの協力をはじめ、本校独自開設科目の国際ボランティア（2単位）の授業などでも活動につながる授業を実施している。また、卒業学年の「課題研究」でも多くの関連領域の関する論文指導・成果発表会を実施し、多くの生徒に国際貢献や世界に関する意識を高めるべく努力している。その結果として、少なからぬ生徒の視野が広がり、世界規模で物事を捉えられるようになった。それに伴い、高校卒業後の進路も、それまで大学進学を考えてもいなかった者が進学希望に変更、難関校への進学希望、更には海外の大学進学や将来的にも国際協力の分野に携わりたいと考える生徒が増加している。また、実際にコミュニケーションが上手くいったり・いかなかったりの実践的な体験を通して、「もっと世界中の人と交流してみたい」「自分が思ったより上手に伝えられなかった」という思いから各言語（英語・ハングル・中国語・フランス語等々）に対する学習への動機づけが高まっている。また、積極的な留学生に触発され、自分も海外で生活してみたいと思うようになったり、内向的な留学生を見て、これまで気づかなかった外国人へのステレオタイプな見方に気づいたりしている。英語でコミュニケーションできなければダメなのだという危機感もある程度育っているように見える。また、これらの受け入れの経験を受けて自らも海外に出る機会を求める努力が始まっている。昨年はアジアの「皮膚感覚レベル」での共感力や理解を高める意味でマレーシアへの修学旅行を（2年生2015年2月）実施。3月には国際交流基金による派遣交流「カケハシ Project」で12名の生徒が「芸能杉総組」として渡米した。2週間で西海岸2校、東部ピッツバーグではホームステイを含めて現地公立校で日本紹介のプログラム（日本舞踊、生け花の実演、日常の高校生活）を実施し「本当の高校生の生活を」紹介した。また、7月には文部科学省のトビタテ留学 J a p a n（国際ボランティア部門）で8名の生徒がインドネシアでのワークキャンプ（児童施設での活動）を実施した。以下はその概要である。

飛び立ってみました「トビタテ！留学 JAPAN」と国際交流活動

ーインドネシア（中部ジャワ州スマラン近郊）児童養護施設の活動と交流についてー

本校は前身の永福高校時代以来25年以上「海外姉妹校（シドニー・フォートストリート校）プロジェクト」を継続してきたことや、現在でも海外から多くの訪問団（ほぼ毎月：中・韓・台湾・米国・豪・仏等）も受け入れ、公立高校が普通にできる国際理解教育を推進し、「市民感覚」の相互理解を深めてきた。また、持続可能な地球社会の発展を考え学校設定科目の「国際ボランティア」なども開設。さらには2012年度よりユネスコスクールに加盟承認された。残念ながら加入したばかりで目立った成果は少ないが、「国際交流」に限定すれば豪州の姉妹校との相互訪問企画をはじめ、日本で一番「国際的」でユネスコの理念を実践しているグローバルな都立高校だろう。更にこの経験を活かして以下の活動を展開した

①カケハシプロジェクト「杉総組」北米巡業

青少年交流を通じて、我が国の強みや魅力等の日本的な「価値」に関する理解と関心を深めるために、日本政府（外務省）により進められた事業に12名が参加した。原則として、全国から選抜され、日本の魅力等についての情報を発信し、国際的な視野を持った次世代の人材として成長するための経験を培うことが目的。（カケハシプロジェクトHPより）

国際交流基金が全額負担（＝タダより怖いものは無いが！！）3学期中旬に東京でのオリエンテーションから始まり、年度末に帰国。歌って踊れる、芸のある「杉総組」で参加。グループ当たり15分のプレゼンテーション、“日本の魅力（COOL JAPAN）”をキー

ワードに半年かけて準備し（通学風景、学校生活、クラブ活動、家庭での生活など）紹介。「リアルな日本」（本校の年間行事：合唱、伝統舞踊、和太鼓・三味線、生け花、和装、Jpop、授業風景、食事、クラブ活動、登下校、週末、遊びなど）をアメリカのヒット曲「Happy」にのせて動画を作成。また、「総合学科」である本校の特色を考慮しつつ、普通の「都立の高校生」の目線から「東京の魅力」を発掘し、発信した。更に「芸能「杉総組」」というコンセプトを元に、上記動画と組み合わせて、生け花、日本舞踊、手品を実演した。また、現地交流校の授業にも参加し『アメリカの高校生ライフ』を経験、ホームステイ（2泊3日PA ピッツバーグ近郊シェラー高校学区）なども含め訪問先：3校（ワシントン州、フィラデルフィア州、カリフォルニア州）の地域性（人種構成、宗教、経済力等）を皮膚感覚的にも理解した。まさに「駆け足」であったが、体調不良に陥る生徒多数出る中、杉総パワーの体力で乗り切った。お互いの相互理解の大切さと現地を自分の目で見ることの意味、チームワークの難しさ、準備活動の大切さを痛感した。この経験をビバジャパンのチームに継承（1名はビバジャパンにも参加：2か月）し、継続性を高めた。

②ビバジャパン「可能性は∞」：交際ボランティア部門：研修ワークキャンプ

文部科学省のビバ留学！Japanの「国際ボランティア部門」の合格者と小平南高校の生徒1名の合計9名により、インドネシアでの国際ボランティアプログラム（企画を主催運営した日本側NGOのNICE：国際ボランティアセンターから1名引率）に参加した。このボランティア活動を通して、生徒達自身が以下の目的を達成することを目標に事前の準備を含めて活動を行った。

①貧困層の児童施設（孤児院）でのボランティア活動

インドネシアにある孤児院で様々なボランティア活動を通して、その子どもたちに国際交流プログラムを提供し、子どもたちの教育の向上を図る。

②実践的な英語でのコミュニケーション力の向上（現地インドネシアの同年代の大学生ボランティアのサポートによる協働活動と企画の運営）

③異文化（マレー文化やキリスト教・イスラム教）への理解力の向上と協調性・柔軟性の向上及び自身の日本への理解や発信力の向上

④現地中等学校への訪問と交流企画（日本文化紹介プレゼンテーション：簡単な日本語教室・浴衣やジンバイなどの和装・日本とインドネシア双方の社会への意見交換）

⑤周辺地域の見学（コーヒー・紅茶プランテーション：世界史で有名な強制栽培、稲作や畑作など熱帯の農業地域と世界遺産のボロブドゥールなどの遺跡修復ボランティア活動・セマラン事件等歴史施設：国家歴史遺産など）訪問し、施設の外の社会も見学した。

孤児院の存在するキリスト教徒地域の児童福祉施設（孤児院）での活動を通して、現地の子供たちと交流を深めるだけでなく、その過程でインドネシア社会の問題点や課題（拡大する社会格差（貧困問題）と人種間対立・宗教対立、環境破壊と文化遺産などを含む持続可能な成長発展を阻害している要因を体験から感じ取るとともに、日本との歴史的関係性や今後を考える良い機会が提供できたかと思う。また、施設周辺の環境や、路上で収入を得て生活する子どもたち（ストリートチルドレン）や、発展するインドネシア社会の矛盾、そのために活動している現地側のNGOのI I W C:Indonesia International Work Campのスタッフや現地ボランティア（ほぼ同年代の大学生）・施設の運営者・職員らと日々同じ飯を食べ同じ所に泊まり交流深めることで、直接的体験として感じた者が多かった。また同じアジアの人間として、同じような物を食べ、その味覚や味付けにも共通性を感じた。研修の過程で、援助物資や金銭に頼らないボランティア活動の可能性をも考えた。また経済的側面の課題だけではなく、職業選択や進学問題なども含めた人生設計の「可能性」まで考える機会を提供できた。この経験を通して自らの可能性や特性・得意分野などを客観的に見られたことで、自分の進路選択に大きな変更を考えた者も少なくない。それまでは大学進学など考えなかった生徒や、同じ進学でもより高いレベルで自分の可能性に挑戦したい生徒も増えた。この企画ほど「総合学科」のメリットを享受できるのではないかな。

③杉総祭（文化祭）での報告会：国際交流活動報告会の開催とその準備段階での学習

上記企画に参加していない一般生徒や保護者・外部を対象に文化祭等で報告会を実施した。アメリカでの活動と感想、インドネシアでの活動内容や奉仕現場の実情やその社会の仕組みや

課題：環境問題（水質汚染、河川汚濁、ごみ問題、含めた研修のまとめ）を制作（PPX と動画）。また参加者のコメントなどを口頭発表する形で多くの人々（文部省担当者及び朝日新聞取材記者も来校）に伝達した。生徒総会や年末の「課題研究」でも全校生徒に報告した。

④ 第 3 回 東京都総合学科高校教育活動成果発表会での発表



⑤ 「留学生が先生！」を実施



⑥ JENESYS2.0 韓国高校生招聘事業 学校交流プログラム

日時： 2015 年 11 月 10 日(火)12:00-17:00

人数： 韓国高校生 32 名 引率者 3 名、TJF スタッフ1名、IFA 職員 2 名、通訳 1 人。計 39 名

準備：お弁当（杉総が準備当日のお弁当の単価は470円です。主菜はお肉です。39個、名札（杉総生は平仮名で振り仮名を付ける）を準備しました。※ちなみに本校は靴の履き替え無しです

時 刻	内 容	場 所	備 考
12:10 頃	学校到着		身代わり不動尊前にて下車、担当者が徒歩で学校へ案内
12:15 頃	校長挨拶	会議室 (2F)	
12:30～13:10	昼食	会議室	HR クラス、buddy を発表 杉総生（韓国語授業受講者）と昼食 <u>アレルギーに関しては対応しかねます</u>
5 時限 13:20～14:10	学校紹介 学校案内	会議室	動画“Happy Sugisou version”と パワーポイントで学校紹介 校内案内へ向けて
14:10～14:20	休憩・移動		
6 時限 14:20～15:10	韓国高校生全員と杉総生で 授業参加	会議室 および ルーム	3学年課題研究の分野別発表会に参加 日本側15名、韓国側18名前後及び 引率者。
15:10～15:45	HR、清掃活動	各 HR 教室	韓国高校生を各教室まで送る。

			その後各 HR 教室にて HR,清掃活動・見学(ハングル選択者)
放課後 15:45～16:15	部活動参加 時間に余裕があれば他の部 活見学	和室 (3F)	Buddy(ハングル選択者及び委員)が 韓国高校生を和室に案内する 国際交流委員は直接和室に集合 和太鼓部で和太鼓体験
16:15～16:50	交流会 ・杉総代表生徒挨拶 ・訪問団生徒挨拶 ・記念撮影 ほか	視聴覚室 (2F)	国際交流委員・韓国生徒は視聴覚室 に集合 記念品交換・団長・校長挨拶 詳細は生徒側委員長と調整
16:50 頃	学校交流終了、学校出発	校門前	校門まで見送り

◎訪日団が予め準備すべき物:名札、自分自身の飲み物

⑥ ★中華人民共和国高校生来校 ★ 以下のようなメールをいただきました。 6/18 にお伺いいたしました、中国高校生ですが、本日午前のフライトで全員無事に帰国いたしました。

この度はお忙しいところ、貴校にて学校交流を実施していただき、本当にありがとうございました。 貴校訪問後、中国高校生からは、世界史の授業がとても楽しく、勉強になったこと、中国の授業と違い楽しく学んでいることが羨ましい、といった感想が聞かれました。

貴校の皆さまに暖かく迎えていただき、中国高校生は大変感動しており、中には、将来日本に留学したい、と力強く希望を語る学生もありました。 この度は急なお願いにも関わらず、いろいろとご準備いただき、ありがとうございました。 本当にありがとうございました。

⑦ 台湾高校生来校平成27年5月27日

同じ漢字文化圏として、中国史の一環として日台関係・日中関係を考えてみました。まずは名前から「ワシ若林＝苗字」で自己紹介

台湾@新竹の私立内思高級工業職業学校（イエズス会＝カソリック）の皆さん来校。全校生徒は1501名。機械科や電子科、電気科などが設置されており、日本でいう工業高校（大学にも多く進学する！！）の生徒さんでした。

孫毛蔣周劉李林「私は誰？」17歳の中山君です

昨年と同様に「英語で世界史」R25の授業に合流＞漢字に頼れるありがたさを実感
国際交流委員会生徒と一緒に



まとめ

学年をまたぐ参加者のチームワークと人間関係の形成・相互啓発と生徒自身による事前準備

や企画立案など、現地に行く前からの様々な準備活動を始めた。外部参加者である一名（同じ都立高校生）を含めて定期的に事前準備会合を開き、また、NICE 側の情報提供や研修（奥多摩で法政大学・英カーディフ大学と共催）を受けて、参加者達自身で企画した「縁日」に必要な物品を準備した。その過程では NGO の存在を含めてすべての参加者が果たした役割は大きい。文化祭を楽しみながらも、その報告活動が誰かに影響や感動を与えているという実感を得ることができたという点では、これまでの文化祭とは違う達成感を得ることができた。また、海外への修学旅行を実施したこともあり、隣国のインドネシアを理解する人数を増やすという目標も達成。学校内外の多くの方々に来校していただき、自分達の研修活動や東南アジア社会の理解を深めることができた。今回の活動では、校内では文化祭での発表にとどまっているが、その際には新聞の取材を受け、教育面で記事が掲載された。

参加者自身のブログや SNS で活動状況をリアルタイムで報告するなどと並行して、報告会の活動等を通して海外交流活動に積極的ではない人間にも情報を提供できたと思う。また国際貢献に関して考える機会を多くの一般生徒に提供できたことや、これまでの「ただ楽しいだけの文化祭」の企画とは異なった点も強調したい。これらの経験を継続させて、次年度は国際貢献部門だけでなく他の分野での活動を含めて、更に可能性を広げていけるように検討・努力している。また、最大の収穫は生徒らがこの経験を活かして進学などの進路決定にも大きく影響を受けたことである。まさに「14 日あれば別人になれます」である。今後もこの活動を彼らが継続すべく努力していけるかが問題点であろう。その意味ではこの人材を活かせる場が確保できるか＝進学先の大学等を如何に提供できるかが今後の課題である。

資料②－2 はカケハシプロジェクトに関してである。

KAKEHASHI Project -The Bridge for Tomorrow-国際交流基金派遣とは
北米地域との青少年交流（米国事業） 短期派遣事業（中・高校生）

■ 目的：標記事業は、日本経済の再生に向けて、青少年交流を通じて、我が国の強みや魅力等の日本ブランドや日本的な「価値」に関する理解と関心を深めるために、日本政府（外務省）により進められている事業です。原則として、全国から選抜された中・高校生が米国において日本の魅力等についての情報を発信し、国際的な視野を持った次世代の人材として成長するための経験を培うことを目的としています。

■ 派遣期間・時期

（1）派遣期間：14日間（往復の旅行期間含む）（2）派遣時期：平成27年3月17日（火）～30日（月）
■ 派遣対象国 米国 ■ 募集単位 1グループ 12名 ■ プログラム内容・標準日程
原則9泊10日の滞在中、オリエンテーション、日本および地域の強み・魅力についてプレゼンテーション、学校交流（1～3日）×3か所（ワシントン州、フィラデルフィア州、カリフォルニア州）、ホームステイ（2泊3日PA ピッツバーグ近郊シェラー高校学区）、関連機関表敬、歴史・観光・自然の名所訪問、報告会レセプション（シアトル総領事主催）等を実施。

要は学校交流（現地生徒との交流）と日本についてのプレゼンをすれば、無料で本校の生徒が12名アメリカに10日間の「研修旅行」に行けるということです。

全国から20校程度240人の高校生が参加する国際交流の「全国大会＝甲子園大会」のようなものである。国際交流基金が全額負担＝タダより怖いものは無いが、、3学期の3月18日に東京で事前オリエンテーションから始まり、帰国が3月29日の日曜日。

積極的で活動的な生徒が参加してほしいとのことから、歌って踊れる、芸のある「杉総生」で行き以下の様な事を実施しました。

まず加者全体6名程度から成るグループを構成。1グループ当たり15分のプレゼンテーション、参加生徒全員で“日本の魅力（COOL JAPAN）”をキーワードに準備した。

日本の魅力の具体例：地域の文化・歴史・自然・地場産業・日本食・祭り・ゆるキャラなど、世界に向けてアピールしたい地域の魅力を高校生の目線から発掘し、発信する。また、これ以外にも日本の高校生の日常生活や、日本が誇る文化や産業として、アニメ、J-POP、かわいい文化、各種伝統芸能、武道、日本の製品・サービス、日本人の勤勉さ・きめ細かさ、価値観、治安の良さ等を含めた。

“日本の魅力（COOL JAPAN）”をテーマにした全体のプレゼンテーション構成を考えた。

プレゼンテーションに加えて、本校が実施してきた国際交流の経験を受けて、本校生徒の通学風景、学校生活、クラブ活動、家庭での生活などをスライドで紹介することで「リアルな日本」を紹介するような企画を検討しました。具体例として本校の年間行事：合唱、伝統舞踊、和太鼓・三味線、生け花、和装、Jpop、授業風景、食事、クラブ活動、などをアメリカのヒット曲「Happy」にのせて動画を作成しました。

また、「総合学科」である本校の特色を考えながら、普通の「都立の高校生」の目線から「東京の魅力」を発掘し、発信することを目指して企画を立てました。多芸に秀でた本校の生徒であることから“芸能「杉総組」”というコンセプトでいきました。

また、上記の内容の動画と組み合わせて下記のような部分に配慮しながらプレゼンテーション：PPXを作成しました。

1. パワーポイントPPX：スライドは、各グループの持ち時間（15分程度）を考慮し作成。

2. スライドの中身は、日常生活、学校の状況、リアルな「杉総生の生活」を反映させ、デジタルデータで映像、音声、動画、図、グラフ、写真等視覚に訴えるものをふんだんに盛り込んだものを作成しました。また、これらは事前に Youtube にアップロードしておきました。

3. これに本校は実際に生け花と日舞＝和装の実演と生徒による手品を組み込みました。

4. 真面目すぎる内容や、いくらためになる物（文化的に高尚である？）であるとしても難しいプレゼンテーションよりは「明るく・楽しく」を徹底した結果、現地の交流校では大好評でした。

5. 貴重な10代での経験を次の人生に活かすためにも、またそれを社会に還元する意味でも大学進学等への影響は大きく変化しました。また、参加の内日本の国内での芸能界（音楽）でのデビュー、海外での音楽修行、文部省のプログラムに参加、校内での国際交流活動の中心的な役割を担うなど活動しています。

また、現地交流校の授業にも参加し『アメリカの高校生ライフ』を経験、ホームステイなども含め訪問先の地域性（人種構成、宗教、経済力等）を皮膚感覚的にも理解することになり、更にこの経験を本校文化祭等で報告会を実施しました。

¹ 1.1 文部科学省初等中等教育局国際教育課（2014）「平成26年度スーパーグローバルハイスクールの指定について（平成26年3月28日）」『文部科学省』

http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/sgh/1346060.htm

都立の「総合高校」であることから、「進学指導」の枠から外され、中学校や受験産業の進路指導の結果として「負の遺産」も抱える中、普通にできる国際理解教育を推進し、「市民感覚」の相互理解を深め、豪州の姉妹校との相互訪問をはじめ日本で一番「国際的」でユネスコの理念を理解しているグローバルな学校かもしれない。学校交流訪問団の受け入れを通して、「市井の公立高校」が普通にできる国際理解教育を推進し、市民感覚の相互理解を深め、また海外に出かけるだけでなく、来日する訪問団も多く受け入れてきた。台湾、韓国、中国、米国から高校生が来校、本校生徒会・国際交流委員会の生徒を中心に授業参加・クラブ活動の見学・参加などで交流を深めた。9月にはシドニーの姉妹校が来校、10月フランスとの相互交流（コリブリ）、11月ジェネシスで韓国が来校。これらの活動を可能にしているのが国際交流委員会とそのメンバー・有志である。

都立高校総合学科でも頑張っている教員と生徒がいることを知らしめたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- ☒ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- ☒ 時間外活動の時間を使用
- ☐ ユネスコクラブの活動として実施
- ☒ その他（国際交流委員会、宿泊防災訓練 1 年生、修学旅行委員会）